

大学院看護学研究科		授業科目	小児看護学特講演習 (研究コース) Seminar/Practice in Advanced Pediatric Nursing			担当教員	二宮啓子 内正子 (専任)	
開講年次	1～2年次	単位数	6単位	科目分類	専門科目 実践看護学	授業形態	ゼミ・実習	
選択必修	選択	時間数	270時間			使用教室		
授業の目的及びねらい		健康障害が小児・親・家族に及ぼす影響を実践の場でとらえ、包括的なアセスメント、個別的な看護技術の適用および小児をとりまく保健・医療・福祉システムを有効に活用する方法を追究する。						
授業のキーワード		ヘルスアセスメント、家族機能、健康問題、倫理、他職種との連携、高度看護専門職						
講義回数	授業内容及び計画							
第1回	ガイダンス							
第2回～	<p>下記の課題についての実習を行い、レポートを作成する。</p> <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害をもって生まれた小児とその家族に長期的に関わり、その事例を通して、小児の健康状態、生活維持能力、家族機能の査定方法を習得するとともに、小児の成長・発達に伴う問題と医療・福祉の連携を考慮して、看護の必要性・方向性を分析する。</li> <li>各学生が関心を持っている領域を中心に、複雑な看護問題をもった子どもと家族について、倫理的判断を含め、看護の機能・方法・方向性を分析し、状況に応じた高度看護専門職としての判断及び援助方法を習得する。また、医療職者への教育的関わりやコンサルテーションについてはスーパービジョンを受けながらより適切な方法を検討し、実践後の評価も行う。</li> <li>医療施設以外の施設の演習を通して社会・保健・医療・福祉・教育などを包括的に検討し、さまざまな障害を持った子どもと家族を援助する方法を検討する。</li> </ol>							
テキスト	なし							
参考文献	必要に応じて提示する。							
成績評価の方法と基準	実習における取り組み、プレゼンテーション、レポートによって評価する。							
教員から学生へのメッセージ	小児看護の研究者にとって、小児看護学の発展を考え、臨床における小児看護の質を高めるための研究を行う際には、看護実践能力が欠かせません。小児看護実践能力を高めるために、3つの異なる小児看護の場での実習を行います。							